

第 1 回「明日の京都の高速鉄道検討委員会」の開催概要

関西国際空港とのアクセスのあり方について

- ・ 関西国際空港の利便性が低い現状では、「伊丹空港をどうするのか、関空をどうするのか」が、これからも大きな問題。
- ・ 京都からのアクセスでは、伊丹空港の活用がもっとあっていいかと思う。空港問題は、大阪府、兵庫県、京都府で議論し、京都府が調整役として立つことが、現実的な解決策。
- ・ 関空は、関空の魅力そのものが問題。「利用されないから不便になる」「不便になるから利用されない」という負の連鎖を切らなければならない。
- ・ 関空アクセスに関して、1年後にダイヤ改正で5分、10分でも短縮し、将来的には1時間以内とする、そういう2つの提言があってもいい。
- ・ 特急「はるか」は、他の列車より優先順位が低く、定時性の確保が軽んじられている印象。
- ・ 関空については、京都からのアクセス改善の実現可能性について整理が必要。

リニア中央新幹線と京都とのあり方について

- ・ リニアが奈良市附近を経由したとしても、京都にとってはメリットがあるはずであり、上手く使う方法の検討が必要。
- ・ ルート選定は利用者を基準に、国全体としてどのルートが最適か、将来に向かって、利用者の視点で一番いいルートを考えることが必要。
- ・ リニアについては、京都への分岐線を作るのというのも一つの方策。
- ・ リニアについては、「不可能なことを話し合うより、次のことを話し合う」ということが有意義。
- ・ リニアについては、数十年後に「あの時、京都は何をしていた」と言われないようにしたい。
- ・ リニアの問題を将来に向けどう考えていくのか、次善の方策をも含めた整理が必要。

その他

- ・ 日本の鉄道の政策、財源は不十分で整備が進んでいない。国家プロジェクトとして財源を使い、国全体で活かす仕組みが必要。
- ・ 今まででは技術の蓄積があるが、今後は技術を支えていく仕組みを整えないと、国として危うい。